

I 解説編

1

読み書きに障害のある児童・生徒とは

学級に、物語文や説明文の音読や漢字の読み書き、読解が苦手な児童・生徒はいまいませんか。

(1) 読み書きが苦手な児童・生徒の例

通級指導学級で指導を受ける児童・生徒の中には、以下のような読み書きに障害がある児童・生徒がいます。



音読が苦手な児童・生徒

- ◆一文字ずつ途切れる読み方をしてしまう。
- ◆文末を読み間違える。
- ◆行をとばして読んだり、読み違えたりする。
- ◆「ねっこ」を「ねこ」とよんでしまう。

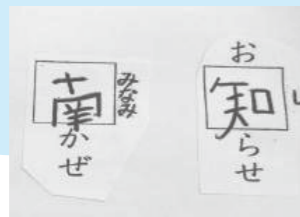


読解が苦手な児童・生徒

- ◆説明文でキーワードを見つけることや要旨を読み取ることが難しい。
- ◆物語文で、「誰が、どうした」かを読み取ることが難しい。
- ◆登場人物の心情を読み取ることが難しい。

漢字の読み書きが苦手な児童・生徒

- ◆画数が多かったり少なかったりする。
- ◆書き順を間違える。
- ◆へんやつくりの組み合わせの理解が難しい。



(2) 読み書きの障害とは

読み書きの障害は、以下のように説明される障害のことです。

- ◆学習に必要な基礎的な能力のうち、一つないし複数の特定の能力についてなかなか習得できなかったり、うまく発揮することができなかったりすることによって、学習上、様々な困難に直面している状態である。
- ◆その原因として、中枢神経系に何らかの要因による機能不全があると推定されるが、視覚障害、聴覚障害、知的障害、情緒障害などの障害や、環境的な要因が直接的な原因となるものではない。
- ◆障害そのものの社会的な認知が十分でなく、また、一部の能力の習得と使用のみに困難を示すものであるため、「単に学習が遅れている」あるいは「本人の努力不足によるもの」とみなされてしまい、障害の存在が見逃されやすい。
- ◆まずは、障害の特性に応じた指導や支援が必要であることを保護者や学校教育関係者が認識する必要がある。特に、早期からの適切な対応が効果的である場合が多いことから、低学年の段階で学級担任がその特性を十分に理解し、適切な指導や必要な支援の意義を認識することが重要である。

「教育支援資料」（平成25年10月 文部科学省初等中等教育局特別支援教育課）より

※このほかに聞く、話す、計算するなどの能力のうち、特定のものの習得と使用に著しい困難を示す様々な状態を含めて、学習障害(LD: Learning Disabilities)といいます。

平成24年に文部科学省が実施した全国的な実態調査では、学習や生活の面で特別な教育的支援を必要としている子供が小・中学校の通常の学級に**6.5%**程度在籍しているとの結果が出ました。

読み書きに障害のある児童・生徒の教科学習における支援方法の確立が必要です。

本資料では、通級指導学級を利用する児童・生徒を対象に、通級指導学級と在籍学級の双方における学習支援の方法をまとめました。

読み書きに障害のある児童・生徒が意欲的に学習に取り組むことができるよう、本書を御活用ください。

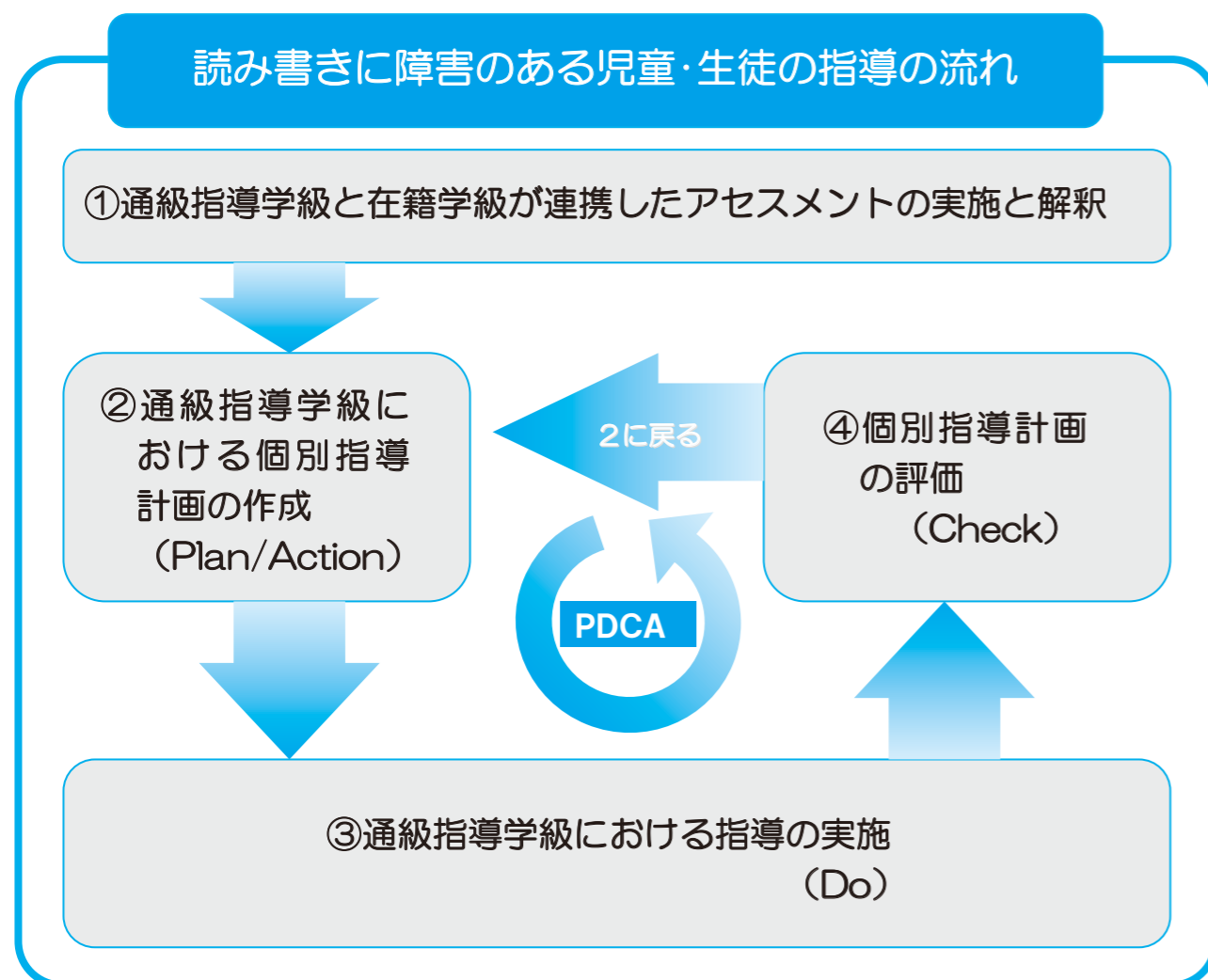
2

通級指導学級における読み書きに障害のある児童・生徒の指導の流れとポイント

読み書きに障害のある児童・生徒の指導のPDCAは、どのようにすればよいでしょうか。

(1) 読み書きに障害のある児童・生徒の指導の流れについて

読み書きに障害のある児童・生徒一人一人の指導のPDCAは、下の図のようになります。児童・生徒一人一人の実態を的確に把握して、実態に応じた具体的な指導目標を設定し、指導の手だてを講じることが大切です



(2) PDCAのポイント

①通級指導学級と在籍学級が連携したアセスメントの実施と解釈

- ◆在籍学級で児童・生徒が困っているところ、つまづいているところを把握します。
- ◆通級指導における学習の様子や行動の様子の観察を行います。
※読み書きチェックリストを活用します。
- ◆心理検査（WISC-Ⅲ、WISC-Ⅳ、K-ABCなど）を行い、認知特性を把握します。
（全体的な知的レベル、得意なところと苦手なところ→認知特性の把握）
- ◆読み書きに困難があることが把握された場合、「MIM-PM」や「読み書き支援プログラム」を活用して、更に詳しく読み書きの障害の状態を把握します。

②通級指導学級における個別指導計画の作成（Plan/Action）

- ◆各種発達検査等の結果に対する専門家（臨床心理士）の解釈を個別指導計画に反映し、指導に生かします。
- ◆在籍学級の個別指導計画の作成を、通級指導学級の教員が支援します。

③通級指導学級における指導の実施（Do）

- ◆指導における指導の手だての工夫
 - ・様々な感覚に働きかける指導・支援
その児童・生徒が視覚認知（形の識別や形の記憶、位置の記憶）を得意とする場合、指導内容を視覚化して提示することが効果的です。また、身体を動かしたり、物を操作したりすることで、学習内容の理解を高めることができます。
 - ・教材等の工夫
文章の流れを分かりやすく整理したワークシート等を用意するなど、教材の工夫をします。
- ◆指導成果の在籍学級への反映
通級指導学級の指導の成果を在籍学級の指導に反映させることで、在籍学級における適応状態の改善を図ることができます。
- ◆児童・生徒の学習意欲の喚起
児童・生徒が授業の自己評価をできるようにすることで、学習に対する意欲を高めることができます。

④個別指導計画の評価（Check）

- ◆個別指導計画の評価欄に学習の習得状況や、児童・生徒の学習への取組状況を記入し、個別指導計画の更新につなげます。